

日本語日本文学専攻博士前期課程の概要と特色

本専攻は、古代中世文学・近世近代文学および日本語学の3研究分野を区分し、それぞれの研究を進めるとともに、専門関連科目として立てた日本思想史・日本民俗学・中国思想史・国語科教育の各特論をも含め、これらを有機的に関連させて、新しい研究の視角を切り開こうとするところにねらいがある。

本学は、黒川文庫・正宗敦夫文庫などの多くの貴重図書を蔵し、開学以来、とりわけ古典研究に多くの業績をあげてきた。さらにその後、辞書学・方言学など日本語学関係図書を中心とする佐藤茂文庫を得ることにより日本語学研究にも新領域を開く土台が築かれた。

(1) ディプロマ・ポリシー

本専攻に2年以上在学し、所定の授業科目について30単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士の学位論文の審査及び最終試験に合格すれば修士（文学）の学位が授与される。

その際に、次のような能力や資質を身につけていることが求められる。

1. 古代中世文学・近世近代文学・日本語学ならびに関連分野についての体系的・横断的・総合的な知識。
2. これらの3研究分野の中で特に深く研究する分野での高度専門職業人としての問題解決能力。

(2) カリキュラム・ポリシー

古代中世文学分野では、上代より中世にいたる文学作品および作者を研究対象範囲として物語・日記・和歌・歌論などをとりあげ、この時代の文学の展開の諸相を究明する。

近世近代文学分野では、近世より現代にいたる文学作品と作者を研究対象範囲として小説および文学理論をとりあげ、この時代の文学を多角的に究明する。

日本語学分野では、主として現代語を研究対象範囲として日本人の言語行動および日本語表現について考察するとともに、通時的視点も含め、日本語のありようを多角的に究明する。

専門関連科目では、日本思想史・日本民俗学・中国思想史・国語科教育の各特論を開講し、思想や教育に関する研究も、言語・文学に関する研究と密接な関係にあることに配慮している。

これら3分野のいずれかに研究の主体を置いた研究課題を策定し、その課題に関係する科目を選択履修することで、研究課題に応じた着実な方法論による専門的・体系的な知識によるアプローチを可能にする。

(3) アドミッション・ポリシー

古代中世文学分野、近世近代文学分野、日本語学分野に関する専門的な知識を修得することで研究遂行能力を養い、自ら定めた独創性に富む研究課題に対し適切な方法論により取り組むことで新しい知見を得ようとする意欲的な学生を求める。